

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第283回

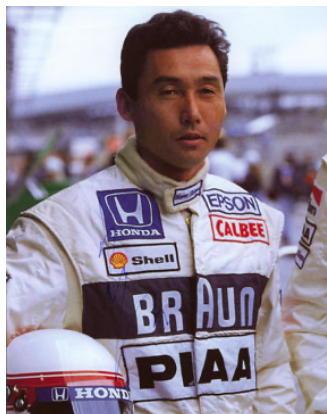
中嶋 悟

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年12月13日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

もし、並のレーサーとトップクラスの
レーサーに差があるとすれば、
それは、執着心と根気の差。

中嶋 悟は、愛知県岡崎市出身の元レーシングドライバーで、有限会社中嶋企画代表取締役社長。身長165cm、体重60kg。血液型B型。日本人初のF1フルタイムドライバーで、株式会社日本レースプロモーションの取締役会長も務める。

Column

以前このコラムで紹介したF1レーシングドライバーの『アイルトン・セナ』が活躍していた時期に日本人初のF1フルタイムドライバーです。当時のF1は非常に高い人気でファンも熱狂していました。私も幼い頃にテレビの前で熱狂していた一人です。F1の世界に限らず、様々な競技で世界に挑戦する日本人がいます。特にスポーツの世界では、今でこそフィジカル面でも外国人選手と対等に渡り合える選手が出てきていますが、一昔前までは彼のような技術で勝負する“職人”と呼ばれるタイプが多かったと思います。彼の現役時代も同じようなタイプの選手であり、特に天候が悪いときこそ自分の技術を駆使して勝負し、好タイムを記録することから“雨の中嶋”と呼ばれていたことが強烈に印象として残っています。

今回は、そんな彼のスタイルを象徴し、解説するかのような言葉です。彼の技術はもちろんですが、当時の印象で私が一番強く残っているものは、レース直後のインタビューです。ものすごいスピードの中、一歩間違えれば命に関わるような勝負が終わった直後とは思えないほど穏やかに対応していました。スポーツに携わり、自らも競技者として没頭した経験を経た今、彼のセルフコントロールは信じられないほどハイレベルだったということがわかります。なぜそこまでセルフコントロールができるのか。ただ冷静なだけでは無理だと思います。そこで今回の言葉を知って納得がきました。トップアスリートとしての“圧倒的”とも言えるメンタリティだったのです。執着心と根気を一般レベルよりも遥かに高い水準で保ち、そのための謙虚さや“覚悟”を絶対に忘れなかったのだと思います。

そんな彼ですが、最初からそんなに強いメンタルを持っていたのでしょうか。私はそうは思いません。今みなさんは高い志を持ちつつも、何度も挫けそうになったり本当に諦めてしまうこともあるでしょう。そんな時に『もう一度だけ頑張ってみよう！』と自分をなんとか奮い立たせることで、自分でも信じられないくらい素晴らしい景色が見られるのかもしれない。自分への挑戦は自分が辞めるまで何度でもできるはずです！